

# ネイパル ブック ワールド 2

## ■ 事業のねらい

本に親しむ体験活動をととして子どもの読書に対する興味・関心を高めるとともに、関係機関と連携して読書習慣の定着を図る。



- 実施日 平成 25 年 2 月 9 日 (土) ~ 11 日 (月) 2 泊 3 日
- 参加対象 小学 3 年生 ~ 中学 3 年生 40 名
- 参加実績 参加者 : 43 名  
 小 3 = 11 名、小 4 = 12 名、小 5 = 12 名、小 6 = 6 名  
 中 1 = 2 名  
 男子 = 15 名、女子 = 28 名
- 備考 協力 : 本の森厚岸情報館  
 活動場所 : 厚岸少年自然の家、本の森厚岸情報館

## 1 事業実施の背景



北海道教育推進計画において、「テレビやインターネットなど、様々な情報メディアの普及や子どもたちの生活環境の変化、さらに幼児期からの読書習慣の未形成等を背景として、子どもの読書離れが進んでいるとの指摘がなされている。」と、子どもの読書離れの現状を示している。

それらを受け、北海道教育委員会では、「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、「朝読・家読運動」を展開するなど、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、環境づくりを進めている。

しかしながら、「読書好きな北海道の児童生徒の割合が、小・中学校とも約 7 割にとどまっている」(施策評価調査)と言われており、子どもの読書への関心を高める取組を一層推進していくことが求められている。

そこで、本事業は、本の森厚岸情報館の協力を得て「読み聞かせ」の手法を学び、幼児に対して屋外のテントの中で参加者自らが読み聞かせを行うという、日常の読書活動とは異なる読書との関わりを体験することなど、非日常的な読書活動をきっかけとして、子どもの読書に対する関心を高め、日常生活での読書習慣の定着を図ることをねらいとして実施するものである。

## 2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
2/9 (土)	受付 13:00~13:30 (本の森厚岸情報館に集合)								受付	開 会 式	図書館司書のお仕事拝見 プロのワザも伝授!	ネイパル に移動	夕食・自由	キャンプファイヤーで読書! キャンプファイヤーの灯りを囲んで...	入浴・自由	就寝		
2/10 (日)	起床	朝食	活動準備	さわやか朝読書 ゆったりと	ミッションに挑戦① プロの読み手に進ませよう!	昼食・自由	ミッションに挑戦② テントをはって、読書ひろば“ブックワールド”をつくろう!				夕食・自由	食後の読書 のんびりと	雪中テント泊を体験! あったか〜い寝袋の中で...	就寝				
2/11 (祝)	起床	朝食	活動準備	【ミッション】 “読書ひろば”で絵本を紹介しよう		昼食	ふりかえり	閉 会 式	13:15 (ネイパル厚岸にて解散)									

## ■ アクティビティについて



## ■ 意図

- キャンプファイヤーを囲んでの読書や雪中テントでの読書など、非日常的な空間で自分のよみたい本を思う存分読み、読書の世界に浸る。
- 読み聞かせの「読み手」になるという、普段と異なる読書体験を通じて読書への関心を高めるきっかけとする。
- 同時開催の親子事業参加者に、小中学生による「読み聞かせ」を聞いてもらうことで、読書に対する保護者の意識を高める。

## ■ 留意事項

- 各班にボランティアを配置し、一人ひとりの子どもたちの気持ちやつぶやきに気付き、時には子どもの話を聞いてあげるなど、子どもの心に寄り添える体制とする。
- 大量貸出による書籍のコーナーを研修室に常設するなど、子どもたちが思い思いに読書を楽しむことができる空間づくりに努める。

### 3 活動の様子



#### ■ 活動の様子

1日目は、本の森厚岸情報館に集合し、図書館司書の川原田恵氏から、図書館司書の仕事について学んだ。引き続き、参加者は、効果的な読み聞かせの方法について実演を交えて学んだ後、自由読書の時間に読む本のほか、最終日に幼児を対象として行う読み聞かせに使うための絵本を選んだ。夜は、ネイバル厚岸で、室内キャンプファイヤーの火を囲んでの読書を体験した。

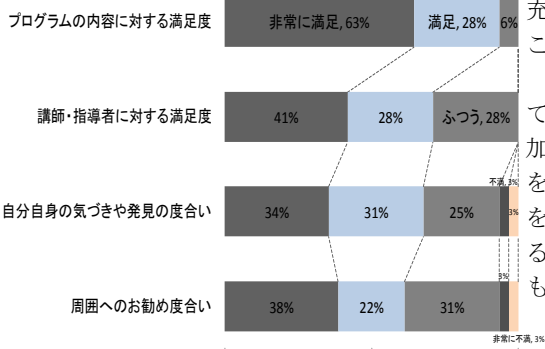
2日目、朝食後の「さわやか朝読書」では、300冊の大量貸出しの本が並ぶ部屋で、飲み物やお菓子を食べながら、クラシックの流れる中、ゆったりと読書を楽しんだ。昼からは、翌日の読み聞かせの実演に向け、練習や準備を行った。夜の雪中テント泊と翌日の読み聞かせブースとを兼ねたテントを屋外に張り、看板を作ったほか、班ごとに読みの役割分担を決めるなど、1日目の情報館での学びを生かして読み聞かせの練習に取り組んだ。夜は雪中テント泊を体験した。

3日目は、同時開催の「親子自然体験」に参加した幼児を招待して、10個のテントブースが並ぶ「読書ひろば」において、参加者自身が読み手となり「読み聞かせ」を行った。ブックワールド参加者4人～5人に対して、2～4人の親子が一張りのテントの中で読み聞かせを体験するという空間の距離感が功を奏し、あたたかい雰囲気のもと、読み聞かせ会を行うことができた。

#### ■ 参加者の声

- 雪中テント泊は、最初は不安だったけど、朝までぐっすり眠れました。
- 真冬に外のテントで寝たのははじめてで、楽しかったです。
- 情報館で教わったことが、本番の読み聞かせにすごく役に立ちました。
- 楽しく読み聞かせができました。小さい子がよるこんでくれて、とってもうれしかったです。
- テントの中での読み聞かせは、とてもステキでした。（「親子自然体験」参加保護者）

### 4 事業評価



#### ■ 参加者の変容【IKR調査結果】

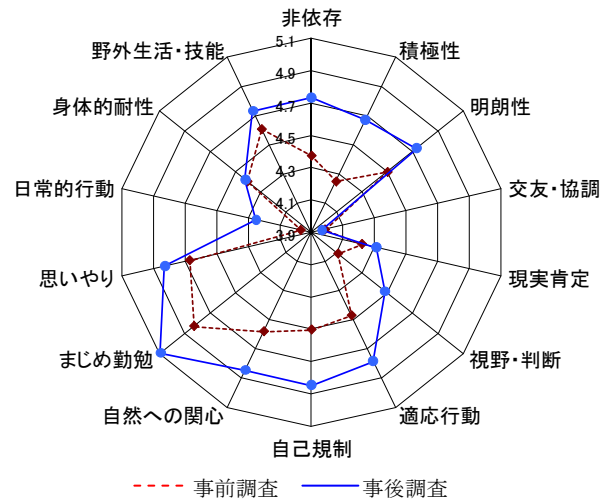
全体としては、6.5ポイントの向上（有意差あり）。特に心理的・社会的能力は3.6ポイント向上した（有意差あり）。

最も大きな変容を示したのは、「積極性」「視野判断」の0.4ポイントであった。

#### ■ 結果の分析・考察

「積極性」の向上については、自分が読み聞かせの読み手になるという、主体的な読書活動がプログラム全体を貫くものとして位置づけられ、充実した活動が行われていたことによるものと考えられる。

「視野判断」の向上については、読み聞かせの絵本を参加者自身が選び、班内で役割を分担し効果的に伝える工夫をするなど、自主的に判断する場面が多かったことによるものと考えられる。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 「雪原のテントの中」という非日常的な空間で、参加者が行った読み聞かせを幼児が喜んで聞いてくれたことや、幼児の保護者による賞賛や感謝の声が達成感につながり、もともと読書好きな参加者はもちろん、どちらかといえば読書好きではない参加者も、読書への好感度が高まる機会となった。
- 本の森厚岸情報館の協力により、効果的な読み聞かせの方法や選書などを学んだことで、プログラム全体の質を高め、活動を充実させることができた。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 本事業のように個別の活動時間が長い事業では、コミュニケーション力を向上させるためのプログラムを意図的に組み込む必要がある。
- 子どもの読書習慣の定着を図るために、社会教育施設としての特長を生かしつつ、更なるプログラムの質的向上を目指していく。